

対人援助学&心理学の縦横無尽（28）

新型コロナウイルスの拡散とそれに関するリスク:オンライン調査の結果

サトウタツヤ・上村晃弘・卒田卓也・田中千尋・土元哲平・伴野崇生・
宮下太陽・横山直子・木戸彩恵

国際的共同研究の一環として新型コロナウイルスの拡散とそれに関するリスクに関する調査を2020年4月に行った。ここでは速報的に公開しておきたい。なお、データ全体を示しているものではないが、データに立脚してストーリーラインを提示してある。

オンライン調査の結果:新型コロナウイルスの拡散とそれに関するリスク

参加大学(国)

ジュステイーノ・フォルトゥナート大学(イタリア)	シドニー大学(オーストラリア)
オスロ大学(ノルウェー)	エクス=マルセイユ大学(フランス)
サレルノ大学(イタリア)	ジークムント・フロイト私立大学(オーストリア)
バイア連邦大学(ブラジル)	ルクセンブルク大学(ルクセンブルク)
タリン大学(エストニア)	華東師範大学(中国)
立命館大学(日本)	ガジャ・マダ大学(インドネシア)

日本の調査は立命館大学総合心理学部サトウタツヤと人間科学研究科(文化心理学ゼミ)大学院生が担当。

方法 2020年4月1日~16日にSNS(FB等)で拡散。

参加者数:267名(海外居住者も含む)。

参加者の特徴は以下の通り;(20-65才の「社会的中心層」が回答を寄せたと言える)

居住地

特定警戒都道府県(13=北海道・東京・茨城・埼玉・千葉・神奈川・石川・岐阜・愛知・京都・大阪・兵庫・福岡)の者が84%(うち首都圏48%、中部圏5%、関西圏25%)

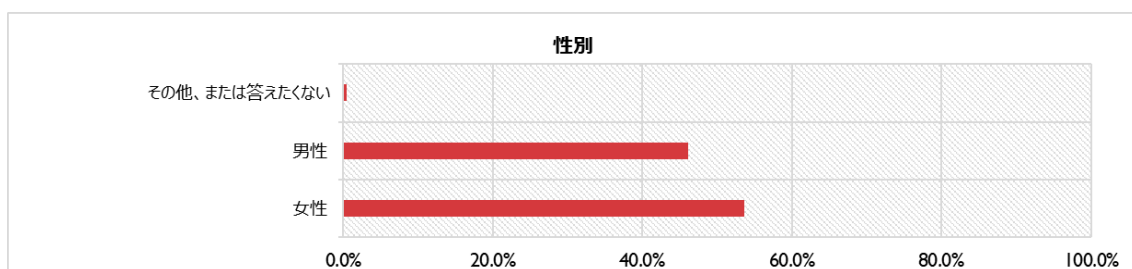
学歴

学歴については、大卒:高卒が約 10:1 であった。

性別

性別

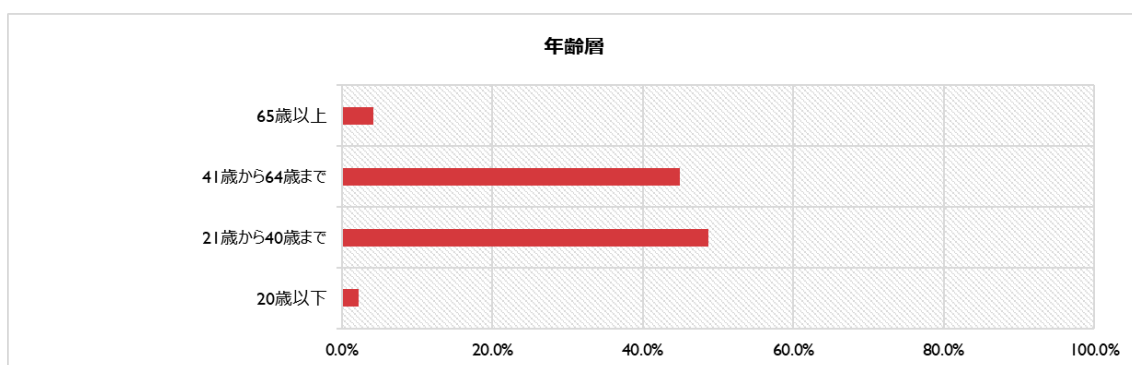
	度数	パーセント
女性	143	53.6%
男性	123	46.1%
その他、または答えたくない	1	0.4%
合計	267	100.0%



年齢層

年齢層

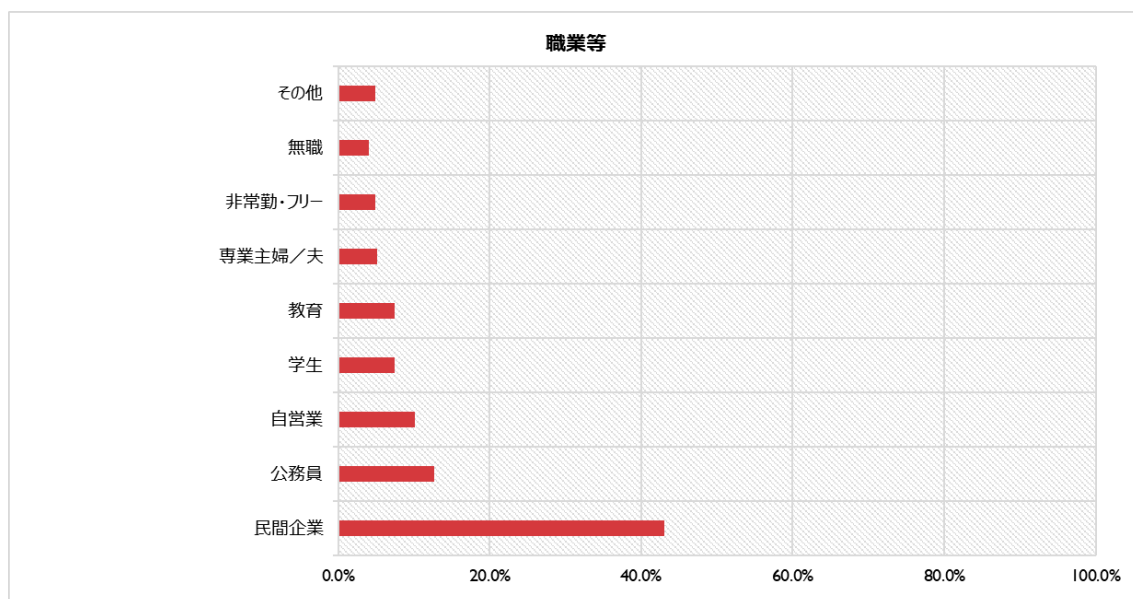
縦 (項目) 軸	度数	パーセント
20歳以下	6	2.2%
21歳から40歳まで	130	48.7%
41歳から64歳まで	120	44.9%
65歳以上	11	4.1%
合計	267	100.0%



職業等

職業等

	度数	パーセント
民間企業	115	43.1%
公務員	34	12.7%
自営業	27	10.1%
学生	20	7.5%
教育	20	7.5%
専業主婦／夫	14	5.2%
非常勤・フリー	13	4.9%
無職	11	4.1%
その他	13	4.9%
合計	267	100.0%



回答項目

情報取得の方法、新型コロナウイルス感染への態度、将来の見通しなど。量的調査の他、質的調査も行った。

回答方法

量的調査:各項目に対して、「あてはまる～あてはまらない」の5件法を用いた。

質的調査:「新型コロナウイルスは A****、しかし、B****」という文を作ることを依頼した。A の部分は、今の不確定な状況についての評価であり、B の部分は不確定な見通しである。

分析結果のストーリー化

量的調査については、5件法を3件法(はい、わからない、いいえ)に再コード化した。

全体の度数分布ならびに、性別・年齢別の比較を行った(結果的に性・年齢による違いはあまりなかった)。

質的調査については KJ 法に準拠してカテゴリを生成して A と B の関係を見た。

量的調査からわかったことから4月上旬におけるストーリーラインを描くと

今回の回答者である20-65才の大卒・「社会的中心層」は、

現在の状況は非常に厳しく、長期的な影響があると見ている。経済に関しては地域・国内・国際、全てに大きな影響があると懸念している。(自分が受け取る)発信されている情報は不明確で分かりにくいと感じているが、自分たちなりに信憑性をチェックしている。利用されるのはSNSやインターネット等およびおそらくそれらを通じた公的情報で、新聞はさほど利用されていない。

政治も科学も宗教もあてにならないしあてにしていけないが、あえて言えば(医療を含む)科学技術には信頼しており、その進歩により治療法が見いだされると期待がある。これまでに提案された予防ガイドライン等は遅かったし不十分だと感じているが、一応従うことで個人として予防を実践している。一部では生活必需品の買いだめも見られる。

今は数日先のことも不明確で不安である。経済への悪影響も懸念しているが、新しい方法で人とコミュニケーションをとるなど、工夫をしている。

社会制度(政治・科学・宗教)を信用できないのではあるが、科学に対しては治療の開発などで期待を寄せている。したがって世の中(世界)に対する態度は不信というよりは「信」であり、だからこそ、個人(人類の一員)のような感じで行動をしていくことを重視し、そのうち元通りになるという期待と見通しをもっている。

なお、上記の結果について男女差や年代差はほとんどない。学歴については大卒:高卒が10:1のデータであり学歴による比較は難しいが一定の傾向はある(聞きたい方はご質問ください)。

→

質的調査を見た上(分析したのは一部の質問のみ)で上記の結果に付け加えたとしたら

感染症は自然現象であり薬の開発など時間が来れば克服できるという期待のもと、親密圏や世間というところの信頼を頼りに、個人でできることをやっている。感染症の歴史もふまえて、今回の試練が社会が良い方向へ変わるきっかけになる可能性もあると考えている。

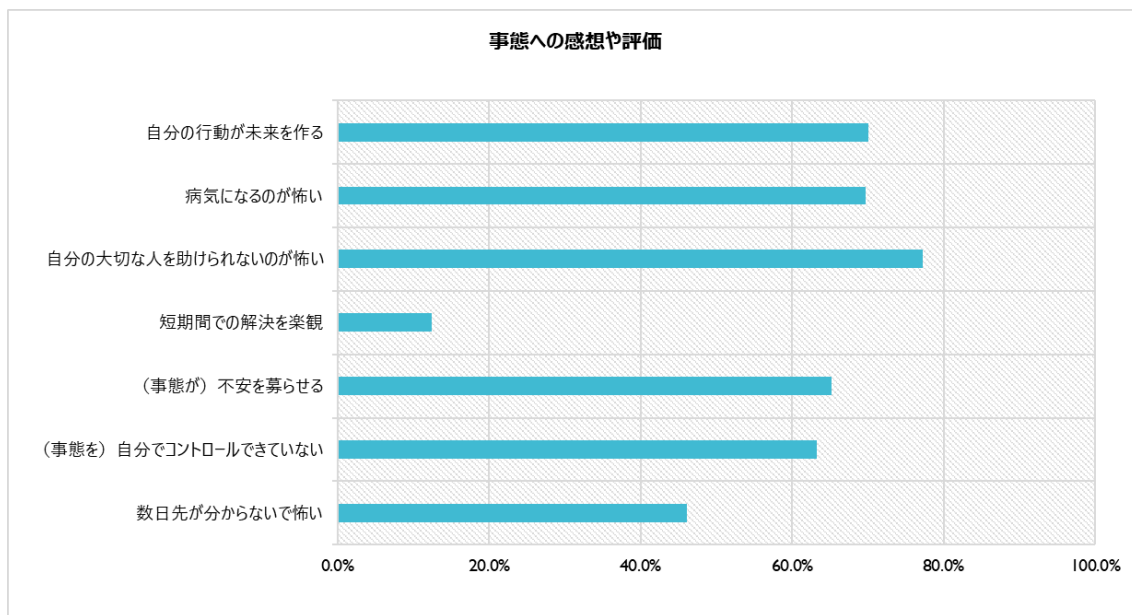
次ページ以降、主なデータ

%の数値は、当該項目に対して「あてはまる・ややあてはまる」とした者の割合である。

事態への感想や評価

事態への感想や評価

	「はい」の度数	パーセント
数日先が分からないで怖い	123	46.1%
(事態を)自分でコントロールできていない	169	63.3%
(事態が)不安を募らせる	174	65.2%
短期間での解決を楽観	33	12.4%
自分の大切な人を助けられないのが怖い	206	77.2%
病気になるのが怖い	186	69.7%
自分の行動が未来を作る	187	70.0%



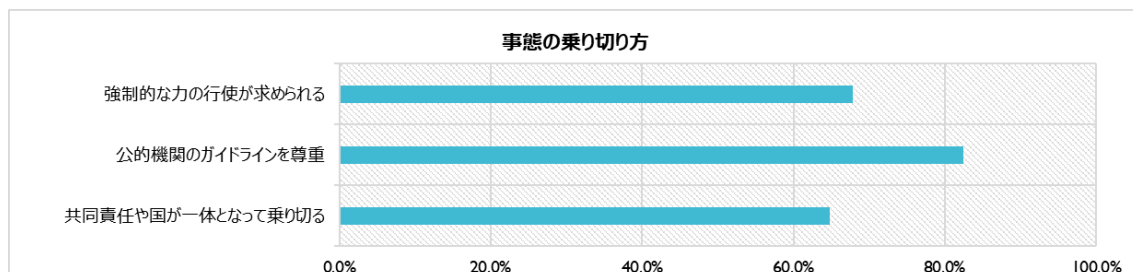
現状の評価:

状況は自分のコントロールをこえており(60%)不安である(60%)、そして病気になるのが怖い(70%)
楽観している者は少ない(10%)。しかし、自分たちの行動で未来を変えられると思っている(70%)

事態の乗り切り方

事態の乗り切り方

	「はい」の度数	パーセント
共同責任や国が一体となって乗り切る	173	64.8%
公的機関のガイドラインを尊重	220	82.4%
強制的な力の行使が求められる	181	67.8%



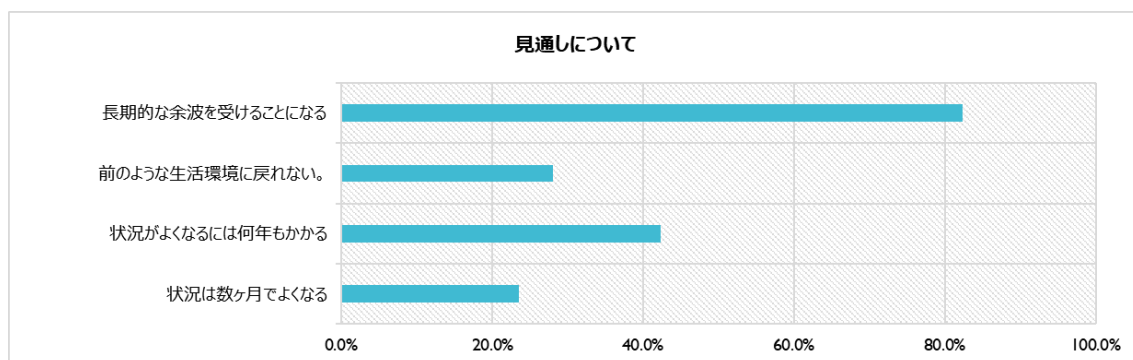
ガイドラインを尊重すべきとする者が多く(80%)、強制的な力の行使についても(70%)が容認傾向。しかし、個人が努力して乗り切るべきだという考えが最も多い(90%)。

→主体的な行動が必要という意識が強い。

見通しについて

見通しについて

	「はい」の度数	パーセント
状況は数ヶ月でよくなる	63	23.6%
状況がよくなるには何年もかかる	113	42.3%
前のような生活環境に戻れない。	75	28.1%
長期的な余波を受けることになる	220	82.4%

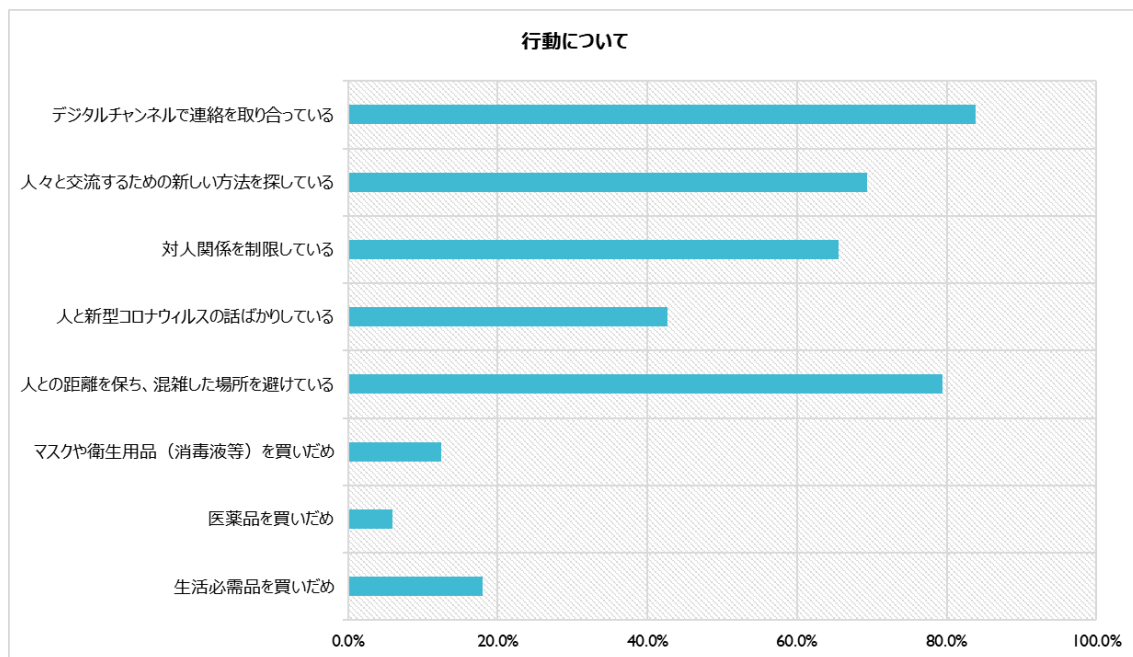


状況は数ヶ月で良くなるとは思っておらず、長期的な余波をうけると考える(80%)が、前のような生活に戻れないと思っている人は少ない(30%)

行動について

行動について

	「はい」の度数	パーセント
生活必需品を買いだめ	48	18.0%
医薬品を買いだめ	16	6.0%
マスクや衛生用品(消毒液等)を買いだめ	33	12.4%
人との距離を保ち、混雑した場所を避けている	212	79.4%
人と新型コロナウイルスの話ばかりしている	114	42.7%
対人関係を制限している	175	65.5%
人々と交流するための新しい方法を探している	185	69.3%
デジタルチャンネルで連絡を取り合っている	224	83.9%



買いだめに関しては、マスク・衛生用品で 10%、生活必需品で 20%の人が日頃よりストックを多くしている。対人関係を制限し(80%)、混雑をさけている(70%)が、新しい方法を探し(70%)、デジタルチャンネルを利用している(80%)。しかし話題は新型コロナウイルスのことが多い(40%)

→

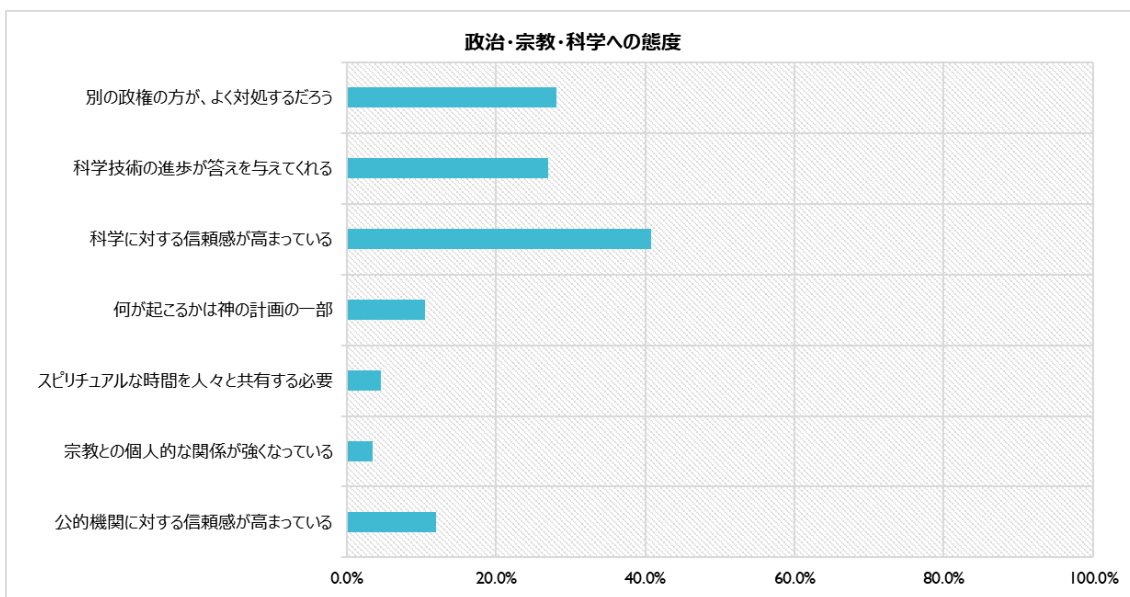
いわゆるコロナ疲れが心配

買いだめ(確保パニックになる可能性)もある程度は存在した。

政治・宗教・科学への態度

政治・宗教・科学への態度

	「はい」の度数	パーセント
公的機関に対する信頼感が高まっている	32	12.0%
宗教との個人的な関係が強くなっている	9	3.4%
スピリチュアルな時間を人々と共有する必要	12	4.5%
何が起るかは神の計画の一部	28	10.5%
科学に対する信頼感が高まっている	109	40.8%
科学技術の進歩が答えを与えてくれる	72	27.0%
別の政権の方が、よく対処するだろう	75	28.1%



政治や公的機関は信頼できていないが、かといって、野党が信頼できるわけではない。

宗教に時間を使うわけではないが、科学技術も信用できるわけではない。

科学技術に関しても過半数には達していないという意味では信頼しているわけではないが、他に比べれば信頼できるという見方もできる。

→

何も信じられない状況でどうする？ 個人でやるしかないという覚悟？諦め？がある。

科学を信じられる人は、そこに依拠しながら個人でやるしかないという覚悟？諦め？がある。

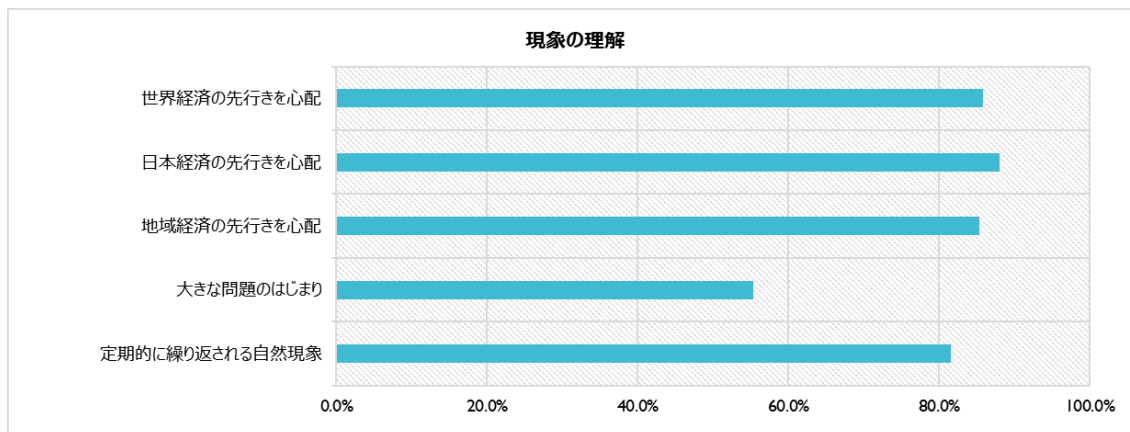
なお、日本の安倍政権だけが「コロナ危機で支持率低下」という状況もある。

<https://president.jp/articles/-/34684>

現象の理解

現象の理解

	「はい」の度数	パーセント
定期的に繰り返される自然現象	218	81.6%
大きな問題のはじまり	148	55.4%
地域経済の先行きを心配	228	85.4%
日本経済の先行きを心配	235	88.0%
世界経済の先行きを心配	229	85.8%

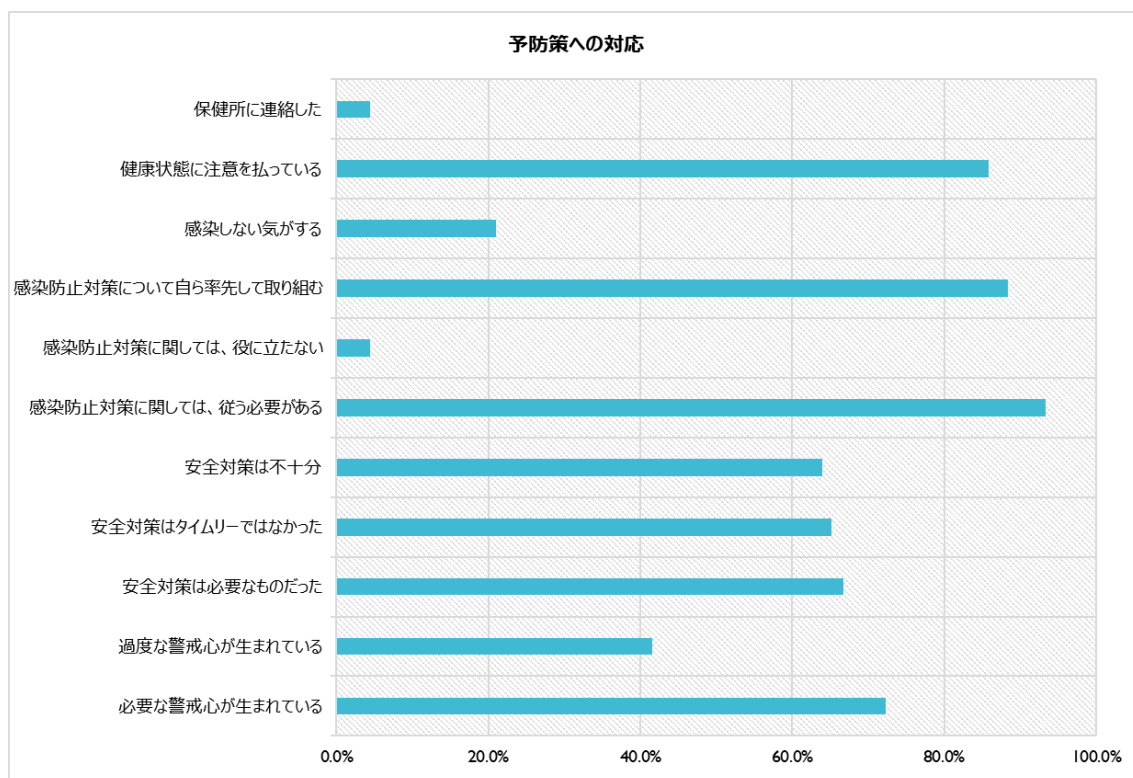


新型コロナウイルスの感染症は自然現象とする者が 80%、経済の先行きについては、地域・日本・世界、いずれも 90%が心配している。

予防策への対応

予防策への対応

	「はい」の度数	パーセント
必要な警戒心が生まれている	193	72.3%
過度な警戒心が生まれている	111	41.6%
安全対策は必要なものだった	178	66.7%
安全対策はタイムリーではなかった	174	65.2%
安全対策は不十分	171	64.0%
感染防止対策に関しては、従う必要がある	249	93.3%
感染防止対策に関しては、役に立たない	12	4.5%
感染防止対策について自ら率先して取り組む	236	88.4%
感染しない気がする	56	21.0%
健康状態に注意を払っている	229	85.8%
保健所に連絡した	12	4.5%

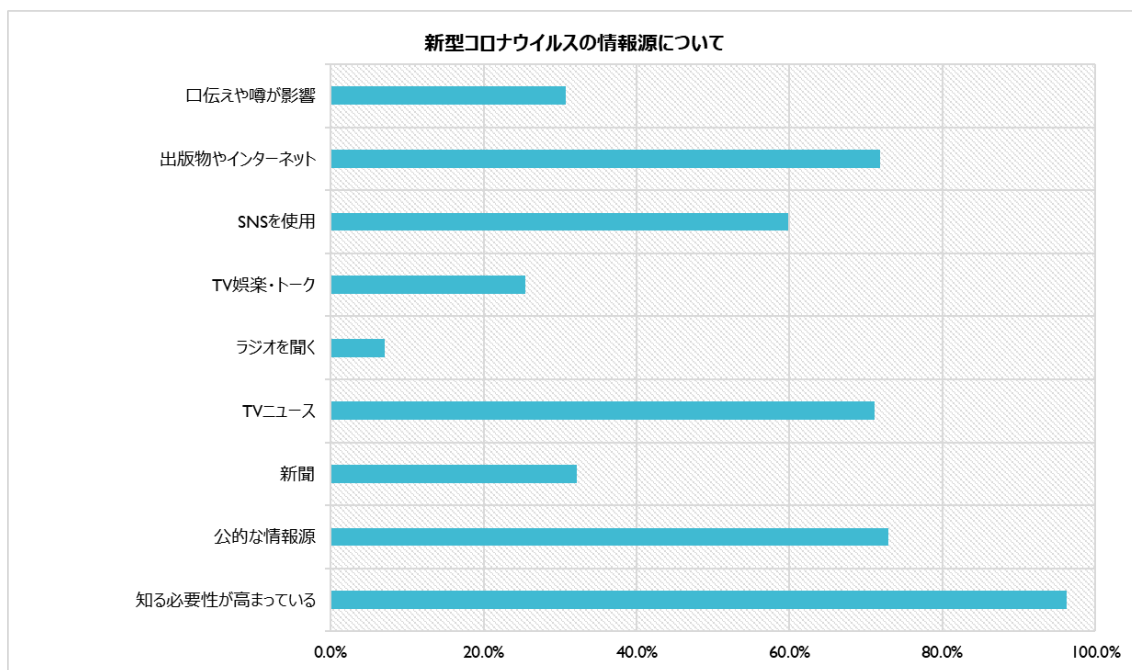


安全対策に従う必要があると思うが(90%)、不十分であり(60%)、タイムリーではなかった(70%)。必要な警戒心があり(70%)、自ら率先して防止策に取り組む(90%)。自分が感染しないとは思わず(80%)、健康状態に注意を払っている(90%)。

新型コロナウイルスの情報源について

新型コロナウイルスの情報源について

	「はい」の度数	パーセント
知る必要性が高まっている	257	96.3%
公的な情報源	195	73.0%
新聞	86	32.2%
TVニュース	190	71.2%
ラジオを聞く	19	7.1%
TV娯楽・トーク	68	25.5%
SNSを使用	160	59.9%
出版物やインターネット	192	71.9%
口伝えや噂が影響	82	30.7%

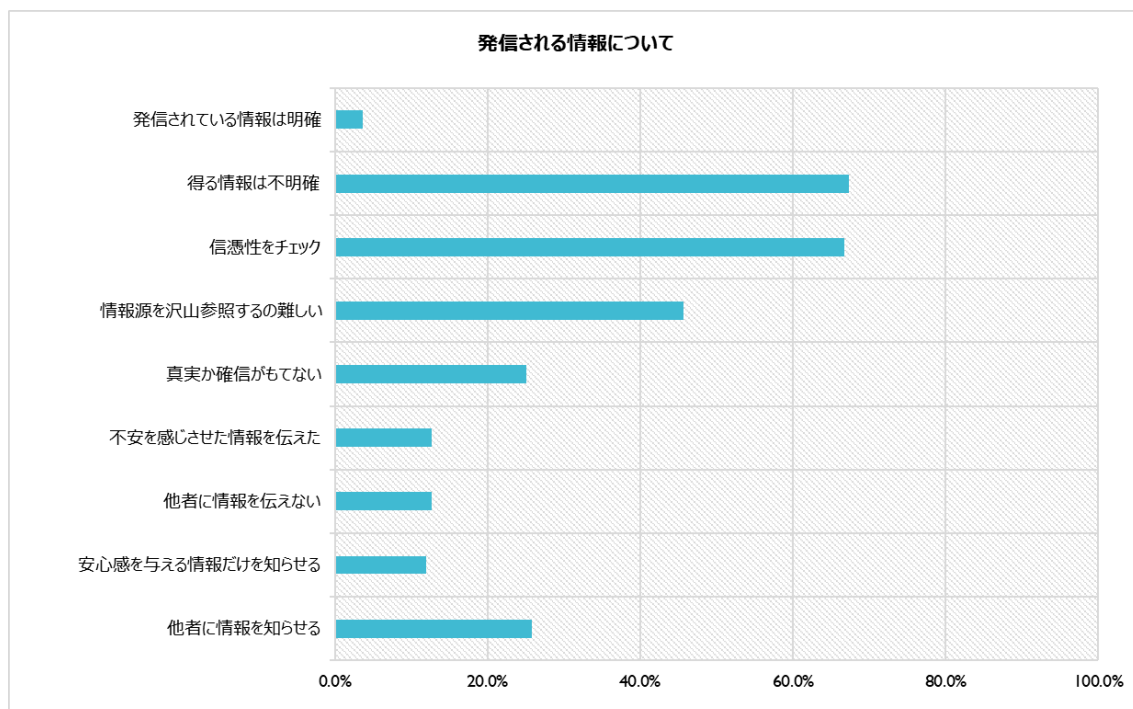


新型コロナウイルスについて知る必要があるとするのはほぼ全員であり、TV ニュース、省庁の情報、出版物・インターネットを参照し(70%)、SNS を 60%が利用している。一方で、新聞は 30%で TV の情報娯楽番組と変わらない。ラジオは 10%にとどまる。口伝えや噂が影響しているとする者も 30%いる。

発信される情報について

発信される情報について

	「はい」の度数	パーセント
他者に情報を知らせる	69	25.8%
安心感を与える情報だけを知らせる	32	12.0%
他者に情報を伝えない	34	12.7%
不安を感じさせた情報を伝えた	34	12.7%
真実か確信がもてない	67	25.1%
情報源を沢山参照するのが難しい	122	45.7%
信憑性をチェック	178	66.7%
得る情報は不明確	180	67.4%
発信されている情報は明確	10	3.7%



発信されている情報が明確と思っている者はほぼおらず(5%未満)、自身が得る情報は不明確だと思っており(70%)、情報源をたくさん参照するのは難しいが(50%)、信憑性はチェックしており(70%)、真実なのか確信を持っていない人は多くない(30%)。他者に情報を伝える人は少ないが(30%)、全く伝えないとするものが多いわけでもない(10%)。安心感のある情報を伝える者、自分が不安になったものを伝える者、いずれも少ないとはいえ10%ほど存在する。

この研究は立命館大学文学研究科・人間科学研究科の新旧大学院生によって翻訳され実行されたものである。

以上、質問は立命館大学総合心理学部サトウタツヤ

(satot@lt.ritsumei.ac.jp もしくは satotster@gmail.com)

をお願いします。